

「高齢化が進めば、なんらかの形でこういうものは必要になる。自分たちの街をつくるという意識でやっている」と話すのは、形原地区公共交通協議会会長の天野忠則さん。協議会には歴代総代も加え、住民への説明はまず自分たちで行いました。

くるりんバスの効果は、交通空白地の解消だけではありません。「バス自体がコミュニケーションの場になる。家にこもるくらいなら、健康のためにもバスを利用して出歩いてほしい」

天野さんは、市民まるごと赤い電車応援団の団長も務めています。「5年間の運行継続が基本的に合意された。両市の市民の皆さんの利用促進活動の結果であり、感謝申し上げます。子どもたちが将来利用していただけるように活動していく」と、11月29日に行われた名鉄利用促進大会で語りました。

乗って育てよう！支線バス  
乗って残そう！赤い電車



# 名鉄西尾・蒲郡線

## 中学1年生が高校卒業するまで継続

10月に行われた名鉄西尾・蒲郡線対策協議会総会において、平成28年度から32年度までの5年間の運行継続に向けた基本合意を行いました。現在、中学1年生が、高校を卒業するまでは存続が決まったこととなります。

企画政策課 ☎66・1162

### 学生の声 利用促進大会



西浦中学校3年 汐田晴紀君  
来年から高校生。時間どおりに動く電車は通学に欠かせません。名鉄で観光に行くであろう家族の姿を見てうれしくなりました。沿線観光地を生かして、観光路線としてかがやいてほしい。



三谷水産高校3年 増田直斗君  
西尾市一色町に住んでいて、高校を決めるとき、モノづくりに興味があり三谷水産高校へ。充実した学校生活を支えてくれたのが名鉄。すばらしい景色が活力を与えてくれた。夢を追う学生に不可欠なものです。

参加者に、赤電応援団ピンバッジプレゼント！

## 赤い電車に乗って 鳥羽の火祭りへ行かまい！

「鳥羽の火祭り」の起源は約1200年前。「ネコ」と呼ばれる奉仕者が、燃え盛る高さ5メートルの巨大な松明「すずみ」に飛び込んで「神木」と「十二縄」を競い取り出し、その年の天候や豊作不作を占います。燃え残った竹で作った箸で食事をすると歯の病にかからないと伝えられています。

- とき 2月14日(日)
- ところ 鳥羽神明社(三河鳥羽駅徒歩10分)
- 集合場所 三河鳥羽駅前  
※鳥羽神明社で自由解散
- 集合時間 午後6時40分
- 参加費 無料 ※交通費は各自負担
- 申し込み 1月18日(月)までにハガキ、ファクスで郵便番号・住所・氏名・電話番号を企画政策課(〒443-8601 FAX66◆1190)へ。参加者には、案内ハガキを送付します

乗車：名鉄蒲郡駅発 午後6時11分  
降車：三河鳥羽駅